

幼児期の教育における学びを探る

～生じた課題に対し、主体的・協同的に学ぶ姿～
(アクティブ・ラーニングの視点から)



金沢大学人間社会学域
学校教育学類附属幼稚園

2016

ま え が き

新しい時代の教育の方法・考え方として「アクティブ・ラーニング」が提唱されています。「幼児期の教育はすでにアクティブ・ラーニングそのものである」ということは「感覚的には」確かであるとの共通認識が幼児教育に携わる方々の中にはあるのではないのでしょうか。幼稚園教育要領解説でも幼児の主体性と教師の意図がバランスよく絡み合うことが幼稚園教育において重要であるとして、「幼児はそれぞれの興味や関心に応じ、・・・幼児なりのやり方で学んでいくものであって、・・・教師があらかじめ立てた目的に沿って、順序立てて言葉で教えられて学習するのではない。幼児が、遊びを通じて、学ぶことの楽しさを知り、積極的に物事にかかわろうとする気持ちをもつようになる過程こそ、小学校以降の学習意欲へとつながり、さらには、社会に出てからも物事に主体的に取り組み、自ら考え、様々な問題に積極的に対応し、解決していくようになっていく。・・・」と述べられています。確かであるという感覚がより深められて明確なものとなり、それによって新しい方向性が見出されることを期待いたします。

幼児期の学びがその後の就学後の学習や生活に効果的につながってゆくにはどうすればよいのか、また、そのために何が必要なのかという幼少連携・接続の研究に本園は取り組んで参りました。昨年度の紀要には石川県内の幼稚園、こども園、保育所、小学校に「幼小連携」についてのアンケートを行った結果の分析を発表いたしました。その中で明らかになってきたいくつかの課題を踏まえて幼小をつなげる視点としてのアクティブ・ラーニングの可能性の研究に取り組み、今年度の研究紀要は研究テーマを『幼児期の教育における学びを探る』～生じた課題に対し、主体的・協同的に学ぶ姿～（アクティブ・ラーニングの視点から）としました。本園における幼児の遊びや生活より抽出した事例をアクティブ・ラーニングの観点から考察した本研究が幼小連携・接続の取り組みにおける新しい視点を開く端緒になりましたならば幸いに存じます。

さて、本年度も本園におきまして6月と11月の2回にわたって保育を公開いたします。これまでの研究の成果、私たちの取り組みについての報告等を多様な観点からご覧いただき、忌憚のないご意見、ご指摘、ご感想をいただけますようお願いいたします。

最後に、熱心なご指導をいただきました諸先生方をはじめ、ご多用の中ご来会いただきました皆様に心より御礼を申し上げ、ご挨拶といたします。

平成28年 6 月

園 長 山下 浩